

【H29-30】報告に対する本市の考え方

	各部会からの意見の概要(報告より抜粋)	市の考え方(今後の取組み等)
1	<p>短期的に集中して取組む施策と長期的に取組む施策とを明確にするべき (モノづくり振興部門会議)</p>	<p>今後は長期的に取組む施策なのか、短期的に集中して取組む施策なのか方向性を定めた上で、施策のゴールを意識し施策の企画、立案を行います。</p> <p>また、現在執行している事務事業に関しても、効果を勘案し、整理してまいります。</p>
2	<p>施策の実施に際しては、企業への意識喚起から目標設定、情報提供の流れを想定するべき (モノづくり振興部門会議)</p>	<p>事務事業の周知に関しては、(公財)東大阪市産業創造勤労者支援機構のコーディネーターに協力を仰ぐ等、市の実施する事務事業だけでなく、その他支援機関との連携を図って参ります。また、事務事業のターゲットに応じた効果的情報提供の方法について検討して参ります。</p>
3	<p>重要な分野にリソースを集中すべき (モノづくり振興部門会議)</p>	<p>ご指摘の平成29年度実施調査の結果を踏まえ、ハード面ではなく、ソフト面での支援を念頭に置きつつ、事務事業の絞込みを検討して参ります。</p> <p>また、東大阪市都市ブランド形成推進事業につきましては、ラグビーワールドカップ2019終了を一つのタイミングとし、事業の評価を行います。</p>

	各部会からの意見の概要(報告より抜粋)	市の考え方(今後の取組み等)
4	<p>東大阪市立産業技術支援センターの今後のあり方について (モノづくり振興部門会議)</p>	<p>モノづくり試作工場の模様替えに伴い、再構成した東大阪市立産業技術支援センターの機能を明確に打ち出し、ウェブサイトを活用し市内外の企業への周知に取組みます。</p> <p>また、東大阪市立産業技術支援センターの認知度の向上のみならず、人的交流、ネットワークの形成のための活用法も検討して参ります。</p>
5	<p>学生を含む若者と復職・再就職を目指す女性の登録者の増加について (労働雇用部門会議)</p>	<p>昨年度の労働雇用部門会議で、就活ファクトリー東大阪(以下ファクトリー)の対象者のうち、特に利用者の少ない学生と、子育て中の女性の登録者を増加させるためには、ターゲットごとに違ったアプローチが効果的であるという提言を受けた。</p> <p>そこで、学生に対しては、新たな取り組みとして、キャリアセンターに留まらず近畿大学の学部内で就活関連のセミナーを実施する。</p> <p>セミナーで、ファクトリーの事業内容の説明を行うことで、直接、学生にアピールすることができ、今後の利用に期待できる。</p> <p>子育て中の方に対しては、子どもを連れての遠出が大変であるという意見から、ファクトリーがある布施とは別の地域の方も利用しやすいように、旭町にある子育て支援センター「あさひっこ」にて託児付きのセミナーを実施する。</p> <p>さらに、広報ツールの1つであるウェブサイトについては、ファクトリーの特色や魅力がよりわかりやすい内容に改修していく。</p>

	各部会からの意見の概要(報告より抜粋)	市の考え方(今後の取組み等)
6	<p>利用者満足度の向上について (労働雇用部門会議)</p>	<p>利用者満足度を向上させることで、施設のサービスに満足した利用者の口コミなどによる拡散が期待でき、新規登録者数の増加が見込めることから、ファクトリーの特色あるサービスについて検討を行った。</p> <p>そのうちの1つがキャリアカウンセリングであり、これは、一人あたりの利用回数に上限を設けず、担当制によるきめ細やかな対応が利用者に好評である。今後も利用者を丁寧にサポートしていき、就職に繋げていきたい。</p> <p>もう1つは、多種多様なセミナーを開催しているが、これは利用者の幅広いニーズに応じていくとともに、潜在的求職者の掘り起こしを行い、就職活動の第1歩を踏み出すきっかけに繋げていく狙いがあり、今後もより効果的なセミナーを開催していく。</p>
7	<p>実態把握の強化について (労働雇用部門会議)</p>	<p>利用者の状況を把握することで、就職に結びついていない利用者に対して、きめ細やかなサポートを行うことができる。また、その状況を分析することで、今後の運営にも活かすことができると考えられる。</p> <p>そのため、電話にて確認を行うのはもちろんだが、定期的にメールや文書にて状況確認を行い、より正確な状況の把握に努めていく。</p>